

京都市第2次編成予算への賛成討論

兵藤しんいち(北区)

公明党京都市議員団は、令和6年度一般会計予算案・第2次編成及び公営企業特別会計予算案ほかの議案に関し賛成の立場を表明しておりますので、その理由を述べ、討論を行います。

現在、京都をはじめ日本全体が、留まるところを知らない少子高齢化とともに、人口減少という大きな時代の変化に直面しています。加えて世界的脅威であった新型コロナのパンデミックや、未だ続く侵略戦争、地域紛争等の世界的な不安情勢、そして市民生活に暗い影響を与えている終わりの見えない物価高騰など、私たちを取り巻く環境は大変厳しいものとなっております。

そのような中、本市は本年2月に新たに松井市長を迎え、「突き抜ける世界都市京都」「すべての人に居場所と出番のある社会」を掲げ、新体制がスタートしました。

令和6年度はすでに始まっておりますが、公明党京都市議員団が昨年提出した令和6年度予算要望をはじめ本年2月に提出した観光対策に関する政策提言など、多くの要望を反映した予算としてスタートしたことに対し、高く評価しております。

とりわけ、第1次予算では能登半島地震を教訓とした防災減災対策、前述の観光対策を強化してこられましたが、今回の第2次予算では、京都の未来を担う次の世代の人々の暮らしを見据えたものとして編成されたことに期待しております。

市長には、公約に掲げられたことも踏まえ、全世代の市民の声をしっかりと聴く機会をさらに大切にしながら予算執行に努めていただき、同時に次期総合計画の策定・実行を見据えた体制の充実を進めていただくことをお願いいたします。

今回、一般会計では、第1次予算に続いて特別の財源対策に拠らない予算編成となりました。第2次予算規模は102億円であり第1次予算と合わせた総額は9,616億円。そして特別会計・公営企業会計と合わせた総予算は1兆8,351億円となりました。

令和4年度の黒字決算、令和5年度収支均衡予算に続き、令和6年度予算は厳しい財政状況の中において、第1次・第2次とも、収支均衡予算となったことを評価いたします。

次に、予算特別委員会で議論のあった内容に関連して申し述べます。

災害対策においては、能登半島地震の教訓を踏まえた災害発生時における情報管理について、正確な情報収集・分析体制を強化するとともに、トイレレーラーの導入など、さらなる避難所のトイレ環境の向上にむけた取組みの推進をお願いいたします。

また、市職員のモチベーションの維持・向上には、職員自身の知識やスキルが日々の業務に寄与していると感じることが重要と考えます。職員力向上は、次の京都の未来を担う重要な事業だと認識しております。しっかりと効果の検証をしていただき、手ごたえある取組を期待します。

環境政策においては、環境先進都市・京都として2050年CO2排出量正味ゼロに向け、これまで取り組んできた資源循環を一層促進するための資源物店頭回収促進支援事業について、持続可能な循環型社会の構築に向けた取組となるよう要望します。

公明党京都市議員団の要望が実現した「がん患者アピアランスケア」について、年齢制限を設けない支援制度としたことや、重層的支援体制の充実、子宮頸がん検診の無料クーポン配布対象年齢の拡充などが盛り込まれた事を高く評価します。アピアランスケア支援事業の実施にあたっては、相談をしやすい機運の醸成と必要とされる方に行き届くよう周知啓発に取り組んでいただくこともお願いいたします。

次に、若年・子育て世帯の移住・定住促進について申し述べます。

市外流出の要因である住宅取得費の負担を軽減する、最大 200 万円の住み替え奨励金制度の創設は、本 2 次編成予算の中でも松井市長が注力した政策かと存じます。まちの匠・ぷらすなど他の改修補助金との併用が可能であるため、パッケージとして周知するとともに、悪用されることのないよう転売防止策等についてもしっかりと検討をお願いいたします。また、こどもまんなか公園魅力アッププロジェクトについては、子育て世代だけでなく全世代が安心して楽しむことができる公園の遊具更新等になるようお願いいたします。

病児・病後児保育の受入環境、障がいのある幼児の教育振興補助の充実については、大切な幼児教育の担い手を支える重要な予算であると思います。子どもにとっての最大の教育環境は教師自身であるとの観点からも、これからもしっかりと取り組むようお願いいたします。なお COCO・てらすは、複雑・複合化する困難事例に 3 施設一体化を踏まえ地域支援体制を強化することが何よりも重要と考えられます。今後の施設の有効活用を期待しております。

本予算に計上された歴史博物館の機能強化と考古資料館の整備は、文化首都京都を目指す本市にあつて是非とも進めて頂きたい事業であります。2019 年 ICOM 京都大会も開かれ、多くの方々に京都の魅力を堪能して頂いたと認識しておりますが、京都市そのものが 1200 年の歴史を紡いできた博物館であり、国や府とも連携し、その象徴となるように事業を進めて頂きたいと申し上げておきます。なお美術館の夜間活用については周辺住民の環境に配慮しつつも新たな魅力創出に取り組んで頂きたいと思っております。

教育環境の充実においては、学校施設の長寿命化と体育館の空調整備、トイレの洋式化について、わが会派として予算化を要望し続けてまいりました。児童を守ること

は当然として、地域のインフラの要となるのが学校であり、国への予算獲得も併せて会派としても尽力してまいりたいと思います。

今回、本市の強い経済の復活に向け、産業を支える新たな人材の発掘・育成、京都観光の新たな魅力の創出など、意欲的な予算編成となりました。特にスタートアップについては、多彩なメニューで、新たな産業創出に向けての松井市長の力強い決意を感じています。都市間競争が厳しい中、京都市がスタートアップに力を入れていることを、広く内外に打ち出し、様々な人材を呼び込む絶好の機会ととらえ、市長中心に結果を出して頂きたいと思います。

観光と市民生活の調和については、「手ぶら観光」を推進する宿泊施設を巡回するバスの導入は、分散化が加速すると共に、観光客の行動変容を促進する効果が期待されます。快適で安全であることを強くPRしていただくとともに、観光効果のさらなる見える化を進め、市民理解を促進する事業を、市民向けサービスや市民招待事業を通して、多くの市民に実感して頂ける広報強化を求めます。

市バスについては、国の財源を活用した補助金の創設もあり、均一区間運賃の当面の値上げが回避されました。補助金に甘んじることなく、引き続きなりふり構わない経営改善の取組で増収・増客策に全力を挙げていただきたいと思います。さらに、今回の補助金の活用、民間バス事業者との連携強化などにより、幅広い地域でバス路線を守る取り組みを充実させてほしいと思います。

古都京都の文化財が世界遺産登録されて 30 周年を契機に、地下鉄と市バスを組み合わせた周辺路線に誘客する事業については、文化財といっても寺社だけでなく古典や文化芸術振興とのタイアップが大事です。府外や外国人だけでなく、府民・市民の皆様が市内観光していただくことも「増客」につながります。バスや地下鉄を利用する誘導策についても取り組みの強化を求めます。

市長は「新しい公共」というテーマを掲げられております。市役所の若手職員を中心とした職員力・組織力の向上とともに、すべての市民・企業・団体等にも市政へ参加いただき、京都が抱える社会課題の解決を目指すこととされました。

私どもも、自治体というものは、現場で働く職員の皆様の力が最も大切であるとともに、市民参画・外部人材のかかわりも重要と考えます。京都市がより良い市政運営により、名実ともに日本で一番住み良い街となることを心から願っております。

新しい公共とは、言い換えれば新しい自治体と市民のあり方だと理解しております。繰り返しになりますが、すべての京都市民が1人ももれなく居場所と出番のある社会となることに向けて、公明党京都市議員団も、松井市政のスタートである令和6年度において、予算で掲げた事業の推進に全力を尽くすこととお誓いし、賛成討論いたします。御清聴ありがとうございました。